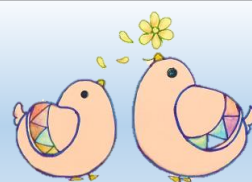


「令和3年度 地域支援センターさきっこ 特別支援教育研修セミナー」を開催しました。



7月29日(木)に「令和3年度 地域支援センターさきっこ主催 特別支援教育研修セミナー」を開催いたしました。慶應義塾大学医学部小児科顧問であります、渡辺 久子先生に「特別な支援を必要とする児童生徒の幼少期から青年期の育ちを踏まえた指導や支援」の演題で御講演をいただきました。先生は10年前の東日本大震災直後から福島県の子どもたちや保護者の心の支援にいち早く駆けつけて下さった方で、その支援は現在でも福島県の各地区に根付き継承されております。渡辺久子先生には、昨年度も御講演いただいており、先生の長年、多岐にわたる治療の経験から導き出される御助言から、参加された方々からは大反響をいただきました。

今回の講演では、特別な支援を必要とする子どもたちの、心に寄り添う方策について、小児科の医師として長年子どもたちの治療にあたってこられた経験による、生きたアドバイスをたくさん頂戴することができました。

また、現在の感染症対策下の社会情勢に影響される、児童生徒の心のケアに通じる部分も多く感じることができました。

新型コロナウイルス感染症の対策を講じた開催となったため、三密を防ぐことを目的とし、校舎内の4つの会場に分かれてのリモートでの聴講となりました。各会場のモニターに映し出された先生の熱い表情と語り口が聴講する者の心に響き、各会場はまさに前のめりになりながらの聴講でした。

また、講演後のトークセッションでは、子どもへのかかわりや支援についての質問に対して、子どもや保護者に寄り添うあたたかい言葉に加え、支援に携わる者すべてを包み込み、ねぎらい、励ますことばもいただき、明日への希望につながりました。



渡辺久子先生には、地域支援センターから講演をいただきました。



本校教職員は各職員室に分かれて、リモートで聴講しました。



外部参加者は、小・中学校、高等学校、特別支援学校教職員の24名。モニターや資料を真剣に視聴していました。また、モニターに向かって、講師の先生とのトークセッションも大変わかりやすく、好評でした。

